

実証運行の評価について（案）

1. 評価の視点

① 計画の目的に見合った公共交通サービスが提供できているか

a) 新たな公共交通サービスの提供により、下表のそれぞれの人がどの程度いるか。

		外出のための 交通手段が	
		満たされている	満たされていない
新たな公共交通サービスを…	利用しない	問題なし	改善されず
	利用する	さらに改善	改善

② 公共交通サービスの提供に関する考え方に照らして適正な利用がなされているか

a) 計画段階：「公共交通サービスが提供されないために困っている人」がどこに何人いると考えると計画を立てたか。

→実証運行：実際にはそのとおりであったか。

b) 計画段階：「困っている人」のうち、公共交通サービスの提供によりどれだけの人が救えると考えると計画を立てたか。

→実証運行：実際に何人の人が新しい公共交通を利用して外出できるようになったか。

c) 計画段階：「公共交通を守り、維持していく取り組みができている地区」の中から計画対象地区を抽出した。

→実証運行：実証運行に際して、沿線の地区がそのような取り組みを行っているか。

③ 公共交通サービス提供のルールに照らして適正な運営や利用がなされているか

a) 公共交通事業者は効率的な運行に努めているか

b) 運賃収入と運行経費、生駒市の補助金の支出額がどのようになっているか

c) 実際の利用状況がどのようになっているか（時間帯または便別の利用者数、利用区間、利用者の属性など）

2. 評価方法

(1) 交通実態調査の実施

前述「1. 評価の視点 ①、②」を評価するため、表-1 に示す交通実態調査を実施する。

表-1 交通実態調査内容

対象者	・本町地区、南地区の居住者
調査項目	・目的別の外出の頻度 ・外出の際の利用交通手段 ・目的別の行き先 ・外出の時間帯 ・外出をあきらめた経験 ・生駒市による財政負担を縮減するための方策 ・個人属性（性別、年齢、運転免許の有無、マイカーの有無、送迎者の有無、居住地） ・居住地の特性（自宅から新たな公共交通の停留所までの距離、同・高低差、従前の最寄駅までの距離）
調査方法	・各地区の自治会長を通じ、アンケート調査票を配布・回収
分析方法	・平成 22 年度に実施した交通実態調査と比較することにより、「外出頻度」、「行き先」、「外出をあきらめた経験」などの運行前後の変化を外出目的別、個人属性別、居住地特性別に分析する ・実証運行による生駒市による財政負担を示し、財政負担を縮減するための方策について、各地区居住者の考え方を分析する

(2) 利用・運行実績調査の実施

前述「1. 評価の視点 ③」を評価するため、表-2 に示す利用・運行実態調査を実施する。

表-2 利用・運行実態調査の実施

対象	・実証運行車両
調査項目・調査方法	・運転手による停留所別乗車・降車人員の調査 ・運行会社による運賃収入の把握 ・運行会社による運行費用の整理（人件費、走行距離、燃料代、消耗品代、修理費用等の費目別の費用の整理） ・運行会社による効率的運行策の実施状況の整理
分析方法	・時間帯別、利用区間別に利用者数を整理し、運行ダイヤ、運行車両に見合った利用の有無を分析する ・運賃収入と運行経費を月ごとに整理し、収支状況および生駒市の補助金の支出額を分析する